

平成27年度 千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館サービスプラン2010」の目標と方針に沿い、平成27年度の図書館評価を示します。

千葉市図書館の目標

- 目標1 地域を支え、暮らしや仕事に役立つ図書館
- 目標2 生活に潤いを与え、心の豊かさをはぐくむ図書館
- 目標3 文化や知識を伝え、次世代を育てる図書館

評価

- A: 計画通りに実施でき、一定の成果があった。
- B: 課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
- C: 不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。

【方針1】図書館サービスの基本である資料の収集・提供機能を拡充します

(1)資料の収集、整理、保存及び提供機能の充実		内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館の利用を促進するため、資料の収集・提供を迅速に行います。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週実施している各地区図書館職員との合同選定会議や、館内選定会などで資料の選定を行い、利用者の要望などを迅速に反映させ、資料の収集に努めた。 ●中・高校生向けの本や科学の本を重点的に収集し、中・高校生の利用促進を図った。 ●リクエストを受けた未所蔵の資料について、購入や相互貸借などにより、速やかに用意するよう努めた。 	A	<p>受入冊数が減少している状況の中で、資料収集・提供の迅速化や利用者の要望に応えるための取り組みがなされており、貸出冊数の減少に歯止めがかかっている点は評価したい。</p> <p>ただし、貸出冊数が増えていない原因を分析し、利用の促進を図る必要がある。また、迅速な資料の収集・提供には、利用者の要望の反映とともに、図書館の視点による選定も大切である。引き続き、良質な図書を選定に努めていただきたい。</p> <p>また財政の厳しい中で予算もわずかながら増えたことは評価する。</p> <p>新刊本は貸出中のものが多く、書架に並べられることが難しいと思われるが、来館者に知らせる工夫がほしい。図書館が新刊本を提供していないような印象を与えようと思う。</p> <p>中高生向けの資料の収集は、その年代の利用促進につながると思われるので評価する。新しく収集した資料については、ホームページの「中高生のページ」や図書館だより等で知らせると良いと思う。</p>
	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●市内27か所のステーションを月2回巡回し、貸出、返却、予約受付等を実施した。 ※ステーション巡回数:613回(前年比 3回減)貸出冊数:57,263冊(前年比 4,232減) 	A	<p>近隣に図書館のない地域にとって、移動図書館の巡回は必要なサービスであり評価する。また移動図書館による団体貸出の配送のサービスが始まったことも評価する。今後、巡回数、貸出冊数が減少した原因を分析し、ステーション設置場所の見直しや移動図書館の案内(場所・日時)を目につきやすいようにする等、告知の方法も検討してほしい。</p>
	ウ 資料費を有効に活用するため、図書資料の計画的な充実を図ります。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●利用頻度の低くなった資料の除籍(*1)及び所管替えを行い、空いた書架に新刊書等を購入し配架した。 ●中央館・地区館・分館間で資料の一時移管を行い、有効活用した。 ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に応えた。 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。 ●CD等を含めた寄贈資料を積極的に受け入れ、古くなった資料の入替えを行った。 ●資料を企画展示に併せて購入し、展示・紹介することによる利用促進を図った。 	B	<p>資料費の伸び悩みはあるものの、様々な工夫で市民にとって適切な資料を収集し、提供していることをよしとし、図書館職員が主体的に選書を行い、総合的観点で体系的な蔵書構築に努めたことは評価できる。資料を企画展示と結び付けて購入、紹介したことも、工夫が感じられ評価したい。</p> <p>受入図書資料数は減少しているものの購入冊数は微増、また寄贈資料の割合も約5%減少しているのは良い傾向といえる。適正な蔵書の構成を維持するために必要な資料が整えられるよう、寄贈本に頼らず、資料費の継続的な確保に努めてもらいたい。</p> <p>蔵書の新鮮度を保つために除籍等の処理は不可欠である。保存書庫が確保されており、市図書館で最後の一冊は保存することができると思う。効率的で効果的な蔵書管理をお願いしたい。</p>
	エ 市民の財産である資料を適正に管理、保存します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●平成27年度は中央図書館、公民館図書室で蔵書点検を実施した。 ●除籍資料選定委員会での適切な除籍や、同じタイトルの資料のうち1冊は保存に努めるなど、資料の適正な管理と保存を行った。 ●汚破損が著しくも、利用価値のある資料は、自動出納書庫へ移管することにより、資料の保全及び利用しやすい書架づくりに努めた。 ●延滞している資料について、繰り返し電話等で督促を行い返却を促すことにより、引き続き延滞件数が減少した。 	A	<p>市民の貴重な財産である図書館資料の保全に努め、適切な維持管理が行われていることは評価する。また延滞件数が減少したことも評価する。引き続き延滞資料の減少に努めてもらいたい。</p> <p>利用者のマナー向上については、引き続き展示や掲示等による対応を望みたい。</p>

<p>オ 利用しやすい図書館環境づくりの一環として、館内表示・レイアウトの改善や利用マナー向上の呼びかけなどを実施します。(全館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●居心地の良い環境整備のため、季節ごとに登録カウンターや障害者サービスの館内掲示を変更した。 ●施設内への貼り紙掲示(「雨天時の返却カウンター水濡れ注意やタイル滑り注意」、「利用者以外の駐車厳禁」「出口、入口の床に大きく矢印表示」等)をした。 ●書架案内図や掲示を改定した。 ●利用者用検索機からプリントアウトする資料情報票の見方の説明を、各検索機に貼り出した。 ●利用マナー向上を促すサインを掲示(駐車場使用に関する譲り合い、飲食・喫煙・携帯電話の禁止など)した。 ●館内見回りの強化と、利用者への声掛けをした。 ●書架の面展示を継続実施した。(ベストセラー書架、書架ごとのおすすめ本等) ●本を探しやすいよう、書架の本を適正な量に削減した。 ●配布用の図書館カレンダーに、利用マナーを掲載した。 ●汚破損資料の展示など、利用マナー向上キャンペーンを実施した。 ●調査・研究環境の向上のため、パソコン席を拡大した。(みやこ) ●利用の多い文庫本の棚を増設した。(花見川団地) ●本を探しやすいよう、引き続き書架の見出しを見やすくした。(稲毛) <p>●資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。</p>	<p>B</p>	<p>利用しやすい環境の整備や利用マナー向上への取り組み等、随時適切な対応が行われている。館内表示については工夫が見受けられ、以前よりは分かりやすくなっている。</p> <p>利用マナーについては基本的に利用者側の問題であるので、利用者自身が考えていかなければならない事だと思うが、図書館として様々な対策がなされ少しずつ向上していることから、引き続き啓発をお願いしたい。汚破損資料の展示はマナー向上に有効だと思われるので、より目立つような工夫が必要である。また、館内の見回りも必要であるが、監視しているようにならないよう注意が必要である。</p>
<p>カ 安心して図書館を利用できるよう、施設の安全管理を的確に実施するとともに防災体制を整えます。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練を行い避難、誘導、消火練習を実施し、救命救急のためAEDの使い方を実施した。 ●エレベータ、非常放送設備等の館内設備について、定期的な点検を実施した。 ●緊急時の即時対応を図るため、カウンター内に「防災用具」を保管した。 ●消火器の位置、避難・誘導等について確認した。 ●排煙窓の操作方法を確認した。 ●合同での消防訓練を実施した。(生涯学習センター) 	<p>A</p>	<p>施設の安全管理や防災への備えは、市民の生命を守る基本的な行為である。特にAEDの使い方についての実習、生涯学習センターとの合同消防訓練等体験を伴う訓練をしていることを評価する。</p> <p>東日本大震災、熊本地震等、日本各地で繰り返し地震は起きている。全職員対象の研修や、利用者も参加する防災訓練等についても検討し、いつ発生するかわからない災害に対する意識を高め、全館で防災体制の強化に努めてもらいたい。</p>
<p>キ 職員の業務水準を向上させるため、図書館業務に関する専門研修を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 図書館職員初任者研修(中央館) * 図書館職員全体研修会(中央館) * レファレンス・スキルアップ研修(中央館) * 新任児童職員研修会(全館) * 障害者サービス職員研修会(中央館) * 接遇研修 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●県立中央で行われているレファレンス研修、児童研修に参加して、スキルアップ向上に努めた。 ●新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施した。(参加者42人) ●図書館職員(非常勤職員を含む)を対象に、図書修理及び接遇能力の向上を図るため、全体研修会を実施した。(2回・参加者数延38人) ●職員(非常勤職員(*2)も含む)のスキルアップを図るため、レファレンスサービス(*3)、おはなし会(*4)の専門研修などを実施した。 ●研修に参加した職員が報告をすることで、職員間で知識を共有した。 	<p>A</p>	<p>多様な研修が行われている。参加者も増加しており、専門研修に取り組む姿勢、また研修に参加した職員の報告により知識を共有するという点など、評価する。</p> <p>研修は人を育てる大事な取り組みであり、非常勤職員も含めたより多くの職員を対象に、継続的な研修の実施を望む。また専門的な仕事が若い人に引き継がれるような専門研修は特に重点を置いて行ってほしい。</p> <p>レファレンスサービスは、利用者が満足できるようなものとなるよう、実践に活用できるような研修を実施してほしい。</p>
<p>ク 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。(全館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館図書室職員の初任者向け研修会を実施した。 ●公民館図書室職員の図書修理及び接遇能力向上を図るため、全体研修会を実施した。 ●公民館図書室の資料充実のため、寄贈資料を未所蔵図書室に送付するなどの支援を行った。 ●公民館図書室事務連絡会等において、各種相談対応や情報提供などの支援を行った。 <p>●より多くの職員の研修会への参加を促す必要がある。</p>	<p>C</p>	<p>市民の一番身近にあり、市図書館の無い地域の市民にとって無くてはならない施設となっている公民館図書室の存在意義は大きい。また市民にとって、市図書館と公民館図書室の区別はない。そのため、利用者が公民館図書室において市図書館と同じサービスを受けられるよう、職員に図書館業務の基本姿勢を身につけていただきたい。特に選書についての研修は必須であり、さらに、資料費等の増額も望まれる。</p> <p>なお、組織が違うため、公民館図書室に対して図書館が研修等の支援を行う形になっており、その点では、適切な対応をしていると考える。</p> <p>しかし公民館に指定管理者制度の導入が検討されている今、図書館は公民館図書室に真摯に向き合う必要がある。公民館図書室を図書館として位置付け、図書館が責任をもって管轄してほしい。市民の身近にある小さな図書館を大切に作る図書館行政を、千葉市の特色にしていってほしい。</p>

(2) 多様な媒体による情報提供のための環境整備

取組項目	ア 迅速で正確な情報提供を行うため、有料データベース等の活用や電子図書等の収集と提供のあり方について、引き続き検討します。(中央館)	C	<ul style="list-style-type: none"> ●有料データベースについては、必要な経費が確保できなかったため、引き続き検討する。 ●レファレンスに必要なデータベースについて、種類や費用対効果等を含め検討するとともに、導入の有効性について検証を行う必要がある。 	C	電子情報に対する取り組みの遅れは以前から指摘している。有効な有料データベースもあり、資料費の中で優先順位を検討したり、現代の図書館サービスには不可欠であることを財政当局にも理解してもらって予算を確保し、早急な対応をお願いしたい。
	イ 引き続き、地区館等も含めた館内のWi-Fi環境の拡充に向けた検討を進めます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●平成28年度に整備する、(仮称)瑞穂情報図書センターにおいて、Wi-Fi環境の導入に向けた検討を進めている。 ●中央館内にWi-Fi環境を整備し、26年10月より公衆無線LAN(*5)サービスの提供を開始した。平成27年についても継続実施した。(Wi-Fiアクセス数:H26年10月～H27年3月:3766件、H27年4月～H28年3月:10,420件) 	B	中央図書館で公衆無線LANサービスが開始されたことは評価するが、限られた場所ではなく、全フロアで使用できるようにしてほしい。市内のすべての図書館で使えるように検討・整備を進めてほしい。
	ウ 図書館としての視聴覚資料の収集、提供、保存のあり方や、ブルーレイディスクなど新しい情報媒体への対応について、引き続き検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●DVD・CDを厳選して収集し、視聴覚資料を充実させた。(視聴覚資料数H26:33,063点→H27:33,610点) ●新しい情報媒体については、普及率や市場動向など、引き続き状況を見ながら検討する。 	B	<p>視聴覚資料サービスは、媒体の変化が激しく先の見通しが立てにくい。図書館資料としての価値判断をして、収集・提供・保存を行う必要がある。</p> <p>利用者アンケートにも多数意見が寄せられているように、DVD・CDは古いものが多い。さらなる視聴覚資料の充実を望む。</p> <p>新しい媒体についても早急に検討を進め、資料を充実させてほしい。</p>

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
1-1	市民一人当たり貸出数及び総貸出数	対前年比増	一人当たり 4.9冊	未達成 (前年比0.1冊減)	一人当たり 5.0冊	一人当たり 5.0冊	1年間に市民が借りて利用した資料数(公民館図書室での貸出を含む)を人口で割った冊数及び総貸出数 27年度 総貸出数 474万冊 26年度 総貸出数 483万冊 25年度 総貸出数 483万冊
1-2	WEB予約件数	対前年比増	93.4万件	達成 (前年比1.2万件増)	92.2万件	91.4 万件	図書館ホームページからの予約状況
1-3	年間受入図書資料数	現状維持	54,069冊	未達成 (前年比1,446冊減)	55,515冊	57,783冊	千葉県図書館が、市民の利用に供するために受入した図書の冊数(購入、寄贈、制作) 27年度 うち購入35,641冊 寄贈18,299冊 その他129冊 26年度 うち購入34,637冊 寄贈20,761冊 その他107冊 25年度 うち購入35,643冊 寄贈21,932冊 その他208冊
1-4	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講数	現状維持	85回 延べ569人	達成 (前年比47人増)	85回 延べ522人	121回 延べ546人	千葉県図書館において開催及び千葉県図書館職員(非常勤嘱託職員(*6)・非常勤職員含む)が参加した、図書館業務に関する研修回数及び受講者数。

【方針2】課題を解決するためのサービスに取り組みます

(1)レファレンスサービスの充実		内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスを周知し利用促進を図ります。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●レファレンスのPRのため、図書館ホームページの調べ物相談(レファレンス・サービス)のページをリニューアルし、レファレンス事例を掲載(5件)した。 ●レファレンス案内の館内掲示や、利用者が困っていたり、本を探している様子を見かけたら声掛けをし、レファレンスサービスのPR等を実施した。 ●図書館ホームページからのメールレファレンス(40件)に対して、資料提供等によるサービスを実施した。 ●電話によるレファレンスにも迅速に対応し、市民の課題解決の効率化を図った。 	A	<p>レファレンス件数が増加したことは評価する。今後も、レファレンス内容の分析を行い、質問の傾向と対応へのノウハウを蓄積していただきたい。また、館内掲示や利用者への声掛けにより、利用者への周知を図ったことは評価できる。図書館に対する認識が誰にも「本を借りるところだけではなく、問題解決の手助けもしてもらえるところ」となるように、さらなるPRの実施を望む。また、学校と密に連携し、子ども達に図書館でのレファレンスサービスをPRすることも、将来の利用者に対する対応として大切である。</p> <p>ホームページで「調べ物相談(レファレンス)」のページがリニューアルされ、レファレンス事例が掲載されたことは、わかりやすくよい。市民が望む課題解決に対応できるよう、職員が研修や経験を積み重ね、レファレンスサービス向上を意識してもらいたい。</p>
	イ 市民が自ら効率的に情報を入手できるよう支援するため、「調べ方案内(パスファインダー)」(*7)などの提供内容を充実させるとともに、図書館ホームページ内の「レファレンス事例集」を充実させます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス)」のページにレファレンス事例(5件)、「調べ方案内(パスファインダー)」(3件)を初めて公開した。 ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」にレファレンス事例を追加(13件)した。 ●図書館ホームページ「図書館NOW!」の「キャッチアップ!!旬」に時事に関する資料のリストを掲載(16件)した。 	A	<p>図書館ホームページへの事例集やパスファインダーの公開、国立国会図書館へのレファレンス事例集への追加など、ともに評価できる。</p> <p>「図書館NOW!」の「キャッチアップ!!旬」は、タイムリーなものや千葉市ならではの情報が取り上げられていて大変興味深いものになっている。これからも市民の需要をキャッチして作ってほしい。</p> <p>来館した人もパスファインダーを活用できるよう、紙媒体にして誰もが目にしやすいところに置く等、さらなる工夫をしてほしい。</p>
	ウ 市民の情報収集・活用を支援するため、図書館資料の検索講座等を実施します。(全館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者が自力で資料検索できるように、利用者用検索機(OPAC)に資料情報票の見かたの設置を継続するとともに、利用者に積極的に声をかけてOPACの操作方法を説明した。 ●OPACの操作研修を行った。(みやこ) ●図書館資料の検索にあたり、具体的な検索事例を作成し利用者に提示した。 <p>●利用者が必要とする資料を、自身で探し出せるよう、機能や案内表示の検討のほか、講座の実施等を検討する必要がある。</p>	C	<p>図書館の姿勢として市民の情報収集・活用を支援することは不可欠である。利用者用検索機の使用説明を随時行う等、個別への取り組みは評価できる。しかし、利用者アンケートにもあるように、検索機の使い方、入力方法がわかりづらいという意見は多い。使用方法や資料情報票の見方が分かるような工夫をしてほしい。またOPACの検索講座は、全館で行う必要がある。</p> <p>利用者がより深く情報や資料を活用できるよう、それを支援するための講座をする等、積極的な試みが必要である。直接的な支援とともに、判りやすい利用案内や検索事例の作成等、利用者が自力で解決するための環境整備も重要と思われる。</p>
	エ 担当職員のレファレンス技術を向上させるため、定期的な研修を実施します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●中央図書館及び地区図書館職員・嘱託職員(*7)を対象とした「レファレンススキルアップ研修」を実施(4回:参加者数16人)した。 ●レファレンススキルアップ研修に参加できなかった職員にも、研修で用いた課題と、課題を解決するための手順を周知し、レファレンス能力の向上を図った。 	B	<p>定期的な研修の実施は評価するが、研修の成果が市民に還元される(利用者が満足する回答を得られる)よう、研修と実践を積み重ねる必要がある。</p> <p>職員により回答のレベルに差があるのは専門的職員が少なすぎることに起因するとも考えられ、司書の充実、育成は必須である。</p>

(2)だれもが利用しやすい図書館サービスの展開

取組項目	<p>ア 図書館利用者を増やすため、地域の実情や世代別のニーズ等を考慮した図書館サービスを拡充するとともに、図書館未利用者に対するPRを強化します。(全館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●三省堂書店そごう千葉店設置のブックポストを活用し、ポスター掲示やチラシ配架を行うことで、図書館未利用者に対し積極的に情報発信を行った。 ●市政だよりや図書館だより、図書館ホームページやFacebookページ、千葉市ホームページ等の活用による、図書館事業に関する情報を発信した。併せて、ポスター掲示、チラシ配布(カウンターでの手渡し)等による周知も積極的に実施した。 ●近隣小学校の児童に図書館利用カードの作成を促進した。(小学校の図書館見学受入の際など) ●近隣小学校の協力のもと、訪問おはなし会及びブックトーク(*8)を実施した。(みやこ) ●保健福祉センターに乳幼児向けおはなし会のポスターを掲示した。(花見川) ●子育て世代を支援するため、子育て支援のコーナーを継続して設置した。(花見川) ●図書館主催講座の内容を市民ニーズの高いものに一新した。(稲毛) ●近隣施設に図書館行事のポスター掲示を依頼した。(若葉) ●資料の紹介「本本つなぎ」を発行し(2回)配布すると共にホームページに掲載した。(若葉) ●カブトムシ・万華鏡を実物展示し、併せて関連図書の展示を実施した。(美浜) ●高洲CC・子育てリラックス館でのポスター掲示や、近隣小学校へのチラシ配布により、事業をPRした。(美浜) <p>●来館者は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。</p>	<p>A</p> <p>各図書館でそれぞれの地域や世代のニーズに合った、個性豊かなサービスが行われたと思う。今後も地域に合ったサービスを拡充してほしい。また、ホームページやポスターの掲示によるPR等は評価できる。</p> <p>三省堂書店そごう千葉店に設置したブックポストを活用して、図書館未利用者に対し積極的に情報発信を行ったことを評価する。</p> <p>「図書館だより」は発行が年に2回に減った。イベントの告知をしても情報がすぐに古くなってしまいうため告知方法の検討が必要である。紙面も読んで面白いと思えるものにしてほしい。また「市政だより」を含め、おはなし会のお知らせが多いが、各館の楽しい催しや様子を知らせたり、図書館が単なる本の貸借場所ではないこと等をPRすると良いと思う。</p> <p>近隣小学校の児童に図書館見学の際に図書館利用カードの作成を促進した取組みは評価したい。その他、図書館での催しや4か月健診等でも利用カードを作成したり、図書館に足を運ぶ体験を増やす等、さらなる工夫を検討してもらいたい。</p> <p>新規登録者数、来館者数は減少しており、その根本的な原因が何であるのかを分析し、分析結果に基づくPR方法の工夫も必要である。特にアンケート調査の中に図書館未利用者へのPRのヒントになる記述がある。せっかく取ったアンケートなので有効に活用してほしい。</p>
	<p>イ ビジネス支援サービスを強化するため、経営・就職関連資料の提供やホームページからの関連情報の発信等を充実させます。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ビジネス参考図書コーナーをPRするためのチラシを作成した。平成28年度より、庁内掲示板に掲載し、配布を開始する。 ●ビジネス支援コーナーにおいて、企業等の社史、CSR(*9)報告書等の積極的な収集を行い、経営・就職関連資料の充実を図った。 ●展示図書コーナーでは、ビジネス書の展示を年7回実施した。 ●千葉市の元気企業と連携し、当該企業の製品等の展示を含めた紹介を行ったほか、経営者によるビジネス支援講座を開催した。 	<p>A</p> <p>ビジネス参考図書コーナーをPRするためのチラシを作成し、平成28年度より、庁内掲示板に掲載し配布を開始する取り組みを大いに評価する。今後も、庁内へのPRを積極的に行ってほしい。</p> <p>資料の収集、効果的な提供により、多面的な情報サービスを実現しており、企業の製品等も含めた展示が行われたことを評価する。既存の企業にとどまらず、起業のサポート等も行えるよう、千葉市ビジネス支援センター等の関係機関との連携を図っていただきたい。</p>
	<p>ウ 子育て世代への情報提供を行い、様々な課題解決を支援するため、子育て支援のコーナーにおける関連資料の充実を図ります。(中央・花見川)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子ども(主に入園・入学前の)を育てる親や家庭が、子育てに関する情報を1か所で得られるよう、児童フロアに「子育て応援コーナー」を設置し、引き続き、資料収集に努め、充実を図った。 	<p>A</p> <p>子育てコーナーには、図書館だけでなく他の関連施設の情報も集められており評価する。今後も資料の収集、充実を図りながら継続して設置していただきたい。スペースの問題もあると思うが、中央図書館、花見川図書館だけでなく、全館での設置を進めていただきたい。</p> <p>図書館未利用者へもPRできるよう、4か月児健康診査時等でコーナーを紹介したり、利用カードを申し込めるようにするなど、更に工夫をしていただきたい。</p>
	<p>エ 誰もが等しく図書館を利用できるよう、高齢者や図書館利用に障害のある利用者に対するサービスを実施します。 * 郵送貸出(中央館) * 宅配サービス(*10)(地区館) * 対面音訳(*11)(中央・みやこ・花見川・稲毛・緑) * 録音資料、点訳絵本の作成(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢者向けに大活字本の充実を図ったほか、宅配サービスを実施した。(貸出冊数4,189冊) ●配本時に新着図書等の案内を同送し、サービスの向上を図った。 ●障害者向け点訳絵本を作成し、充実を図ると共に、体験学習等において点訳絵本の作成を実施した。 ●学校へ訪問し、障害者サービスの説明(点字の指導など)を行った。 	<p>A</p> <p>図書館が行う基本的なサービスであり、障害者サービス担当を中心に必要とされるサービスを実施し、その充実にも努めている点は評価する。点字の体験学習も評価できる。</p> <p>点字で本を読みたいと思っている人がいること等、高齢者や障害者のニーズを把握し、更なるサービスの促進やPRを積極的に行ってほしい。また、地域で音訳、点訳に関心がある人や、点字図書館、市内の関係団体等との連携を図ることも、今後の課題と考える。</p>
	<p>オ より良い障害者サービスの実施のために、職員・音訳協力者向けの研修会や、点字体験の場を設けます。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中央館、地区館、分館の障害者サービス担当職員のスキルアップのための研修会及び音訳協力者向けの研修会を実施した。 ●小・中学生向けの点字体験を、夏休み期間や子ども読書まつりにおいて実施した。 	<p>A</p> <p>サービス提供者、利用者の両面から取り組みが実施されていて評価できる。特に職員・音訳協力者向けの研修会の実施は評価でき、継続的に実施されたい。また小・中学生向けの点字体験も良い取り組みであり評価する。中央図書館だけでなく、各地区図書館での取り組みに拡大させていただきたい。</p>

<p>カ 日本語以外の言語を母国語とする市民の利用を促進するため、外国語資料の収集・提供等、多文化サービス(*12)を拡充するとともに、サービスの周知を図ります。また、外国語絵本の整備や英語おはなし会の実施など、外国人市民の家庭に対するサービスも推進します。(中央館)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ●大人向けの外国語資料の展示を行った(年3回)。また、展示資料リストに、新たに日本語の解説を一部記載するなどして、利用促進を図った。 ●展示に使用する資料を中心に、新しい資料を購入し、提供に努めた。 ●国際交流課等の協力で、「外国語おはなし会」(2回、75人参加)を実施した。 ●更なるサービスのPRを行い、利用促進につなげる必要がある。 	B	<p>大人向けの外国語資料の展示、国際交流課との協力によるおはなし会などの取り組みを評価する。 地域の外国人居住者の調査を行い、地区図書館でニーズに合ったサービスをする必要がある。またサービス対象者や市内の留学生を受け入れている大学などと協力してニーズの把握を行い、より効果的なサービスを目指してもらいたい。</p>
<p>キ 利用者の利便性を高めるため、図書館資料の受け取りができるサービスポイントの設置について、三省堂書店そごう千葉店に設置したブックポストの利用動向等を注視し、引き続き検討します。(中央館)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ●三省堂書店そごう千葉店図書返却ポスト回収数 ・H26年度:885冊(3月のみ) ・H27年度:38,615冊(H27年4月～H28年3月) ●サービスポイントの設置については、引き続きブックポストの利用動向等を注視し、検討していく必要がある。 	B	<p>三省堂書店そごう千葉店におかれた図書返却ポストは、たいへん好評であり、サービスポイントの設置の第一歩として評価する。 利用者アンケート調査では、駅に近い場所等への設置の要望もある。市民にとって利便性の高い他の場所での図書館資料の受け渡し場所の設置を検討する必要がある。今後も費用や利用率等を充分精査し効率的なサービスの向上を実現してほしい。</p>
<p>ク 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日等の見直しについて、引き続き検討します。(全館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●平成26年度に引き続き、地区館において祝日開館、振替休日の開館を実施した。 ●第2次実施計画に「図書館の開館日・開館時間の拡大」として位置付け、以下の取り組み項目を示した。実施館については、引き続き検討を行った。 ・地区図書館の開館時間拡大 1館 ・分館における祝日開館実施 3館 	A	<p>地区図書館の祝日開館、振替休日の開館は市民の要望でもあり評価する。アンケートにも「良かった」との声があがっており、図書館の努力に感謝したい。閉館時間については、中央図書館以外は17時15分となっており、開館時間の延長を望む声も多い。引き続き地域の実情に合わせた開館日・開館時間の拡大を検討してほしい。</p>

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
2-1	レファレンス受付数	対前年比増	94,133件	達成 (前年比1,109件増)	93,024件	86,822件	市民から、図書館窓口・電話・メールにより、必要な資料について問い合わせを受けた件数。
2-2	新規登録者数	対前年比増	22,561人	未達成 (前年比488件減)	23,049人	22,300人	新たに登録した図書館利用者の数(公民館図書室での登録者を含む。)
2-3	来館者数	対前年比増	266.0万人	未達成 (前年比3.2万人減)	269.2万人	268.6万人	館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数。
2-4	年間貸出利用者率	対前年比増	市民の 13%	未達成 (対前年度増減なし)	市民の 13%	市民の 14%	1年間に、図書館を利用した市民の割合(世代別・性別利用者統計も出し、利用者層を分析する。)
2-5	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年比増	95件 10,104点	未達成 (前年比7件減、 329点減)	102件 10,433点	104件 10,407点	対面和訳による情報提供件数、貸出冊数(自宅配本・郵送貸出を含む。)

【方針3】 図書館から積極的に情報を発信します

(1)ホームページ等からの情報発信		内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 利用者のニーズに適応した情報提供を迅速に行い、図書館の利用を促進するため、図書館ホームページにおけるコンテンツの拡充やタイムリーな更新などによる積極的な情報発信を図ります。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 通年開催おはなし会などのページを別に作成し、利便性の向上を図った。 ● 企画展示やイベント情報などを更新し、積極的な情報発信を図った。 ● 主催事業は、ホームページで随時情報提供した。 ● 企画展示に合わせた資料紹介を行った。 ・「本本つなぎ」の発行(2回)及びホームページ掲載。(若葉)【方針2(2)再掲】 	A	<p>ホームページが見やすくなってきていることは評価する。地区図書館からの発信も工夫が凝らされている。また、「お知らせ」は随時新しい情報が掲載されており、企画展示やイベントの情報を効果的に発信している。「調べもの相談」「図書館NOW!」等、着実に情報を積み重ねている努力も評価する。</p> <p>しかし、使い方がわかりづらいものもあり、わかりやすい説明を加える等、引き続き改善をしていくことも必要である。特に「中高生のページ」は改善が必要である。本のリストを載せているだけでは魅力がない。工夫して楽しいページにしていきたい。</p> <p>また、今後、学校や地域の自治会等にもPRし、有効に活かせることを望む。</p>
	イ 図書館が地域情報の入口となるように、地域・行政資料(*13)や地域情報等の千葉市関連資料を積極的に収集し、体系的に整理・保存して提供します。また、これらの情報をホームページ等から発信します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページで公開している地域のレファレンス事例を2件追加し、累計が20件となった。 ● 千葉市の地域・行政資料や地域情報等の千葉市関連資料を積極的に収集・保存した。 ● 電子化された資料は紙媒体化に努め、市民に提供した。 ● 図書館で収集した千葉市の行政資料について、「千葉市行政資料目録」を作成し、ホームページ上で公開した。 ● 地域・行政資料コーナーにおいて展示を行い(例:加曾利貝塚・若葉区歴史探訪講座関連資料展示(若葉))、地域・行政資料や地域情報等の市民提供に努めたほかホームページで周知した。 	B	<p>地域情報の積極的な収集に加えて、電子化資料の紙媒体への変換を実施していることは高く評価できる。また、地域レファレンス事例集が増えたこと、地域・行政資料コーナーにおいて展示が行われ、それに関して「千葉市行政資料目録」が作成されたことも評価できる。地区図書館で、その地域の資料をまとめて探しやすくしたことや、パブリックコメント関連資料の紙媒体での迅速な提供がされたこともよかった。他の地区館でも特色を出して行われると良い。</p> <p>ホームページ上で「地域・行政資料のページ」が独立しており、アクセスしやすい構成になっている。千葉市は、市の歴史や文化などをもう一度見つめなおし、市民にそれらを感じられる街づくりを進めている。このような政策こそ、図書館がバックアップできることを大いに示していただきたい。庁内各署と密に連携し、資料の収集、保存、提供に努めてほしい。</p> <p>今後は、地区図書館が地域と密に連携し、それぞれの地域情報を意図的に収集することが必要である。公民館に指定管理者制度の導入が検討されている今、公民館が独自で所蔵している資料等についても、千葉市の共有財産として図書館が管理することも必要である。</p>
	ウ 利用者の利便性を高めるため、ICT(情報通信技術)を活用した新たな情報提供サービスについて、引き続き検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成28年度に整備する、(仮称)瑞穂情報図書センターにおいて、新たな情報提供サービスとして、タブレット端末の導入に向けた検討を進めている。 ● 引き続き、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスを提供した。(複写件数: H26年10月～H27年3月: 213件、H27年4月～H28年3月: 492件) ● 引き続き、館内公衆無線LANサービスを提供した。(Wi-Fiアクセス数: H26年10月～H27年3月: 3766件、H27年4月～H28年3月: 10,420件)【方針1-(2)イ再掲】 	A	<p>(仮称)瑞穂情報図書センターへのタブレット端末の導入に向けた検討や、中央図書館でのICTを活用したサービスについては評価する。</p> <p>国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」や、中央館の館内公衆無線LANサービスの提供を評価する。中央館内の一部ではなく全フロアでのサービスが提供できるようにする必要がある。</p> <p>ICTの活用は不可欠であり、中央館以外の館内公衆無線LAN環境の整備も必要である。また有効活用のための広報や人的支援も望まれる。</p>

(2) 出会いのある図書館利用の促進

<p>取組項目</p>	<p>ア 図書館の利用促進につなげるため、各種講座を開催します。 講座については、市民の関心の深いテーマを選定するとともに関係機関との連携などにより関連する企画展示を同時期に実施するなど、さらなる工夫を図ります。 * 図書館市民講座(全館) * 郷土史講座、文学講座(地区館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読書活動の普及・啓発のため、図書館市民講座・郷土史講座を開催した。また、講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民講座「健康生活を応援します～からだところの健康～」(中央:参加者9人)、「マイホームの地震対策」(みやこ:参加者9人)、「相続を知って終活に備えよう」(花見川:参加者16人)、郷土史講座「縄文時代の花見川区 檜橋貝塚を中心として」(花見川:参加者29人)、市民講座「下総 千葉氏とその足跡」(稲毛:参加者47人)、郷土史講座「林 芙美子と千葉県」(稲毛:参加者37人)、「遺言のすすめ」(若葉:参加者25人)、若葉区歴史探訪「考古学から見た若葉区の歴史～古墳から見た若葉区～」(若葉:参加者22人)、「リタイヤ後の生活設計～備えあれば憂いなし／老後への生活プラン～」(緑:参加者22人)、「悪徳商法の手口と対処法」(美浜:参加者8人) ●地域の子育て世代にコミュニケーションを図る場の提供・支援を図るため、定例おはなし会やわらべうたの会等を実施した。 ●定例おはなし会に合わせ、集会室を「親子読書ルーム」として開放し、利用拡大を図った。(みやこ) ●絵本とおしゃべり広場と題し、おはなし会の後にフリータイムを設け、子育て世代にコミュニケーションを図る場を提供した。(花見川) ●講座の魅力をもり一層高め、参加者の増加につなげる必要がある。 	<p>B</p> <p>各館で定例おはなし会やわらべうたの会、市民講座の実施による利用の啓発は評価する。おはなし会後のフリータイム等の取り組みは、地域の子育て世代のコミュニケーションの場として良い取り組みである。他の来館者への気遣いの苦労もあると思うが、続けてほしい。 また、市民講座に関連するテーマの企画展示を行い、関連資料の貸出に繋がったことや、定例おはなし会に合わせ、集会室を「親子読書ルーム」として開放したことは、積極的な取り組みである。 図書館で行う講座の内容は、本と結びつき、読書活動の推進や図書館利用を推進するための催しとなることが望ましい。市民のニーズを把握し、形骸化することなく、より魅力ある内容の検討が必要である。27年度であれば戦後70年、マイナンバー、憲法等、タイムリーなテーマの設定も検討してほしい。 また、講師の人材発掘や、市民との協働など、積極的に地域に目を向ける姿勢も求められる。市民の方々が主催者側に積極的に加わることで、より多様かつ活発な企画が生まれることになる。</p>
<p>イ 図書館資料の広がりや豊かさを実感してもらい資料への関心と理解を促すため、企画展示を実施します。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各館所定のコーナーを使用し、企画展示を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示「過去10年のベストセラー」小説編とノンフィクション編に分類して、毎月更新した。(みやこ) ・その月に命日を迎える作家の書物を展示「今月の作家の命日(〇月)」毎月更新した。(みやこ) ・特別展示として「アガサクリスティー没後40年」「若い人に贈る100冊の本」などを展示・貸出した。(みやこ) ・企画展示以外にも、ミニ展示を設けて、著名な作家が亡くなった場合、市民講座など開催の場合は、関連本の展示を行った。(花見川) ・一般・児童の企画展示のほか、地域資料として集めた県内各自治体等が発行する観光用ガイドブック(小冊子)を展示・貸出した。(稲毛) ・一般展示・児童展示を行ったほか、書架の空きスペースにおすすめ本の面展示を実施した。(若葉) ・通年で文学賞受賞作品を、季節毎に「食と健康」「整理力」「人と人との関わり」等のテーマ展示を実施した。(美浜) 	<p>A</p> <p>各館工夫を凝らした展示が行われていて大いに評価する。展示によっていろいろな本を知ることができ、利用者が幅広い分野の本を手取る手助けになっている。 常設展示、おすすめの本等も来館者を新しい本へ導く手立てとなっている。今後も様々な展示を期待している。なお、優れた企画展示もあり、各館で巡回展示などが行われることを望む。また、ホームページで過去の展示が蓄積されているのも有意義である。</p>	
<p>ウ 図書館の利用を促進するため、出前講座(*14)をはじめとした地域での広報活動を積極的に展開します。 * 市政出前講座の受付(中央館) * 著作権セミナーの開催(中央館)</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文化庁及び千葉県経済企画課と共催による「著作権セミナー」及び分科会を開催した(12月開催 会場:千葉市生涯学習センター)。 ●「読み聞かせの達人になろう」と題し、読み聞かせの仕方を身に付ける講座を小学校で開催した。 ●出前講座の利用を増やすため、更なるPRに努める必要がある。 	<p>C</p> <p>身近に参加できる講座があるのは有意義であるが、出前講座の回数も少なく、どの程度市民に受け入れられているのかわからない。出前講座の趣旨と図書館利用の促進を踏まえつつ、ニーズの把握や参加しやすさについての検討が必要である。また、講座を受けたいと思うような、複数の興味深いタイトルが用意される必要がある。</p>	

<p>エ 図書館の利用を促進するため、各種メディアを活用し効果的な広報活動を実施します。 *「図書館だより」の発行（中央館） *「市政だより」へのおはなし会等イベント情報の掲載（全館）</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「図書館だより」にレファレンス事例や図書館利用マナーに関する記事を毎号掲載したほか、市政だより、ホームページ、Facebookページなどによる広報を実施した。 ●近隣幼稚園、保育園、小学校に図書館イベントのポスター掲示を依頼し、利用促進を図った。 ●ホームページ「花見川ライブレター」を年2回作成し、主催行事、お知らせなど情報を発信した。（花見川） ●区版市政だより（稲毛区版6月）に、図書館利用に関する特集を掲載した。（稲毛） ●実施事業の様子やお知らせ・話題など、図書館の情報提供をする「きてみてみはま」を図書館ホームページに引き続き掲載した。（美浜） ●地元のタウン誌「ベイタウンニュース」に行事の案内を引き続き掲載した。（打瀬） 	B	<p>ホームページやFacebook等からの発信について評価する。地区図書館それぞれに、地域の学校、近隣施設を通じてのポスター掲示や、地元のタウン誌に行事案内を掲載する等、地域に密着した伝わりやすい広報が行われたことを評価する。</p> <p>「図書館だより」については、発行回数、ページ数共に少ないため、内容が物足りない。工夫して魅力のあるものにしてほしいが、平成27年度から年2回の発行になった。ページ数、内容について再考が必要である。</p> <p>「市政だより」に載せる情報も、おはなし会のお知らせが中心だが、大人向けの講座、講演会や各館での楽しい企画、特別展示のお知らせ等、多彩なものが掲載されることも必要である。一般の新聞への掲載等、報道関係に常に情報を提供し、図書館が話題になるように努めてもらいたい。</p>
--	---	--	---	--

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
3-1	地域・行政資料の収集冊数	現状維持	3,658冊	未達成 (前年比284冊減)	3,942冊	3,762冊	千葉市、千葉県に関する資料の年間収集冊数（紙媒体）
3-2	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	20回 1,301人	未達成 (前年比206人減)	20回 1,507人	20回 703人	一般市民を対象とした図書館講座等の開催回数及び参加者数

【方針4】子どもの読書活動を推進します

(1) 児童・青少年向けサービスの深化と拡充	内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
<p>ア 子どもが知的好奇心を満たすことのできる本と出会えるよう、絵本・お話の本だけでなく、科学読み物等についても積極的に紹介します。また、児童コーナーでもテーマを決めた企画展示を行います。 *ブックリストの作成・配布（全館）</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●児童フロアで、企画展示・児童書研究展示・科学の本展示・YA(*15)展示のテーマ展示を行うとともに、レファレンスサービスの充実を図った。 ●フロアワークを通して積極的に本の紹介や本の探し案内等を行った。 ●年齢に合わせたブックリスト「よんでみよう」を図書館見学や、学校訪問おはなし会、ブックトーク実施時に配布し、お薦めの本を紹介した。また、「よんでみよう」の本を常設展示し、貸出を行った。 ●読書まつりの時期の企画展示「私のオススメよんでみて！」と題し、一般利用者や近隣小学校児童にポップを記入してもらい、本と共に展示、貸出を行った。 ●夏休みに向けた図書館担当職員のお薦め本のリストを作成・展示した。 ●小学生の図書館見学の際、科学読み物の調べ方をクイズ形式で紹介した。 ●夏休みに万華鏡を展示し、作り方の掲載されている図書を紹介した。 ●ブックリストの更新の準備を行った。 	A	<p>全館で様々な企画展示が行われ、相談に対する積極的な対応は評価できる。フロアワークを通して積極的に本の紹介や本の探し案内等を行ったり、小学生の図書館見学の際、科学読み物の調べ方をクイズ形式で紹介する等、子どもが本の探し方や調べ方を知るきっかけとして、よい取り組みである。これらの積極的な取り組みが、児童書の貸出冊数の伸びにもつながっていると考える。</p> <p>なお、ブックリスト「よんでみよう」は、更新の準備が進んでいるが、新しい本も取り入れ、発行してもらいたい。また夏休みや読書週間に向けて各館で児童サービス担当者のおすすめ本のリストを作り、配布することも検討されたい。</p>

<p>イ 中・高校生の利用を促進するため、YAコーナーを充実させます。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●YAコーナーの資料の充実を図った。 ●中・高校生の利用促進を図るため、年間4回入れ替えをしてYAコーナーのテーマ展示を実施しているが、テーマ選定も、「もっと！科学するところ」「戦後70年～考えよう平和の大切さ～」「翻訳家 金原瑞人の世界」「生きている言葉」と幅広く選定し、関心を高められるようにした。 ●蔵書の見直しを行い、中・高校生が関心のある資料をYAコーナーに配架するようにした。 ●おすすめ本の展示スペースを拡大した。 	<p>B</p>	<p>YAコーナーの展示のテーマ選定の工夫、資料の充実等を評価する。 YAコーナーは定着してきていると思われるので、今後は中・高校生が本を中心に集まれるような もう一歩踏み込んだ企画を期待する。中高生のボランティアを巻き込んで、彼ら自身が楽しめるイベントを企画してみてもよいかもしれない。 地域の学校へのPRや連携も必要である。中・高校生が夏休みなどを利用して活躍できる場を設けるなど、今後の各館の積極的な取り組みに期待する。</p>
<p>ウ 子どもの読書への関心を高めるため、年齢別・対象別におはなし会等を実施します。 * 定例おはなし会 (全館) * わらべうたと絵本の会 (全館) * 子ども(高校生)が語るおはなし会 (中央・若葉) * 親子おはなし会 (全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●定例おはなし会を毎週実施した。(平日の定例おはなし会に参加しにくい小学生のために、土曜日おはなし会(小学生版)を実施した。(稲毛)) ●親子おはなし会を実施した。 ●乳幼児を対象に、わらべうたと絵本の会を開催(11月から月1回)した。また、親子おはなし会を開催した。 ●「わらべうたと絵本の会」に0・1歳児の会を新規に開催した。 ●「外国語おはなし会」を継続して実施した。 ●「はじめてのおはなし会」を継続して実施した。 ●「高校生が語るおはなし会」を継続して開催した。 ●子ども読書まつりにおいて、みんなが語るおはなし会と題して、小学生のおはなし会を継続して行った。 ●職場体験の中学生におはなし会で読み聞かせを実施してもらった。 	<p>A</p>	<p>全館で多様な企画が継続して実施されており、各館の独自の取り組みも評価する。図書館でのおはなし会は定着してきており、職員の地道な努力を評価したい。 日本語以外の言語を母国語とする子どもが増えている今、地域の実情に合わせ、「外国語おはなし会」を地区図書館でも実施してほしい。</p>
<p>エ 子どもやその保護者、さらにより多くの市民の読書への関心を高めるため、子ども読書まつりを開催し、学校や地域との連携により魅力あるイベントを企画・実施します。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●関係諸機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。様々なイベントで本や読書の魅力を発信した。 ・「昔なつかし紙芝居」「みやこ寄席」「はたらく自動車(消防車展示)」を、地域のボランティア等の協力で実施した。(みやこ) ・近隣中学校と連携して楽遊館(科学あそび)を継続して行った。また、団体の協力で、古本市を継続して行った。(花見川) ・近隣高校・読書ボランティアと連携しておはなし会を行った。(若葉) ・「わらべうたであそぼう」「おごづかいの話と貯金箱づくり」「あなたの好きな本おしえて！」「甲冑を着てみよう」「大型絵本おはなし会」「大型絵本の読み聞かせ」「ゆかいなこども音楽会」を実施した。(緑・土気) ・地元企業と連携して、揚琴の演奏と絵本の読み聞かせのコラボレーション「絵本の音楽会」を開催した(打瀬) 	<p>A</p>	<p>子ども読書まつりは、市民の関心も高く、内容も充実しており評価する。学校や他の機関、市民団体などと連携して、より多くの市民が参加するよう努力されたことも評価する。</p>
<p>オ 子どもたちの学校休業中などに、身近な図書館で本や図書館に親しむためのイベントを実施します。 * 子ども一日図書館員 (地区館) * 親子図書館たんけんツアー (中央館) * こどもかるたあそび (中央・みやこ・花見川) * 科学あそび・映画会・図書館クイズなど (全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが学校休業中やその前後に、本や図書館に親しむためのイベントを実施した。(親子図書館たんけんツアー、高校生が語るおはなし会、夏・冬の親子おはなし会、子どもかるた会等) ・ゴールデンウィークイベント「風太武者人形と甲冑を着て写メしよう！」「『動物園の住人たち写真展』に合わせたお絵かき」(みやこ) ・夏休みイベント「わくわく体験教室・飛べ！紙ヒコーキ」「みやこ寄席～夏のこわいお話」(みやこ) ・冬のイベント「こどもかるたあそび」(みやこ) ・ゴールデンウィーク甲冑体験(花見川) ・動物公園の協力で、夏休みにブックラリー(花見川) ・こども一日図書館員(稲毛) ・アニメ上映会(稲毛) ・「ファミリーマジックショー」「子ども一日図書館員」「かんたん工作」(若葉) ・「絵本ボランティア研修」「絵本ボランティア養成講座」「子ども映画会」(緑) ・図書館クイズ(美浜) ・夏休みにNPOと協力して、小学生対象に「工作あそび」(美浜・打瀬) ・子どもたちのおすすめ本を、手紙形式で紹介する「読書郵便」(美浜) 	<p>A</p>	<p>各館での多様なイベントを評価する。学校休業中のイベントは、子ども達にとって楽しい時間になっている。これからもテーマを選定し、より充実したイベント実施をして、子ども達が図書館は楽しい場所だと思ってくれるような企画・展示を期待する。 夏休みを利用して、中・高校生が参加できる企画を行い、図書館の日常的な利用につながる試みをしてもらいたい。</p>

<p>カ 子どもの読書や図書館利用の促進のため、一般向け講座や親子参加事業を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 子ども読書講座(中央館) * 読み聞かせ講座・入門編(中央館)、わらべうたと絵本講座(地区館) * 「子ども読書の日」記念事業(全館) * 親子図書館探検ツアー(中央館) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●市民対象に「読み聞かせ入門講座」を実施し、絵本の選び方や読み聞かせの仕方等について実演を交えた講義を行った。 ●「子ども読書講座」では、大東文化大学の河野芳英氏を講師に、「ピーターラビットの生みの親、ビアトリクス・ポターの世界」の講演を実施した。 ●その他、子どもの読書や図書館利用に関する親子参加事業を開催した。[親子参加事業]子ども読書まつり、わらべうたと絵本の会、子ども読書の日記念親子おはなし会、夏・冬の親子おはなし会、青少年の日フェスタ親子おはなし会、親子図書館たんけんツアー ●NPOと協力し「みやこ寄席」を開催した。(3回)(みやこ) 	A	<p>子どもと大人と一緒に参加する「子ども読書講座」は講師の選定が難しいかもしれないが、子ども向けの講座の開催は評価したい。これからも期待している。</p> <p>市民対象の「読み聞かせ入門講座」の実施は、家族とともに読書活動を推進するために良い企画である。</p>
<p>キ 子どもの図書館利用に関する啓発事業として、子ども向け図書館資料検索講座等の実施について引き続き検討します。(中央館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館見学で来館した際に、学年に応じて、検索端末の使い方や情報資料票の見方、配架の仕方等の説明を行った。(小学校:105回、3,425人参加) ●図書館見学について、引き続き、市内の全小学校に案内通知を行うとともに、平成28年度は参加実績の少ない小学校を中心に参加を促す。 	B	<p>利用方法に加えて図書館業務を楽しみながら知ってもらうことは、本および図書館への興味につながる良い取り組みである。したがって、図書館見学に来た子ども達に、検索端末の使い方等の説明がされたことは評価できる。</p> <p>ただし、見学が実施された一部の学校だけではなく、すべての子どもが図書館利用に関する啓発を受けられるように、学校との連携を深めてもらいたい。</p> <p>図書館が問題解決の手助けもできることをぜひ多くの子ども達に伝え、図書館は使えば使うほど便利で面白い場所だということを教えてほしい。</p>
<p>ク 担当職員の知識・技能を向上させるとともに、講師として派遣できる人材を育成するため、内部研修や派遣研修等を行います。(全館)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ●絵本ボランティアに対して、本の読み方、絵本について研修を行った。 ●児童担当の職員・非常勤嘱託職員に対する、読み聞かせやサービス提供についての研修を実施した。 ●素話や読み聞かせの館内研修を実施した。 <p>●学校や関係機関へ派遣できる人材を増やす必要がある。</p>	B	<p>児童サービスに精通した職員の存在は、図書館サービスにとって不可欠である。各館で児童サービス担当者は必ず必要であり、今まで蓄積されたサービスの質を引き継ぐための十分な研修をお願いしたい。志のある職員を広く庁内から募集し、育成することも考えられる。また、研修後、講師として派遣できる人材になるまでの間になにかしら実践でスキルの上昇を図れる仕組みがあると良い。外部研修についても積極的に参加してもらいたい。また、講師を務めることのできる人材育成については、外部派遣もさることながら、図書館内部での講師役を増員することが急務である。</p>

(2) 学校・家庭・関係機関等との連携、協力

取組項目	<p>ア 子どもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)を推進するとともに、新たな計画(第3次)を策定します。(全館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●第2次計画の成果と課題を踏まえ、新たに第3次計画を策定した。 ●同計画(第2次)に位置付けられた施策事業について、子ども読書まつりなど各種行事の充実を図った。 ●関係部局に対し、計画事業の進捗状況調査の実施に合わせて会議を開催し、進行管理を行った。(第2次) 	A	<p>第2次計画の成果と課題を踏まえ、新たに第3次計画が策定され、目標を立てて事業を推進していることを評価する。子どもの読書推進は保育所(園)・幼稚園・学校・地域の文庫(*16)や子どもと本に関わる団体等と連携して進めていく必要がある。図書館がそれらをつなぐ役割を担ってほしい。</p>
	<p>イ 子どもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から職員が学校に出向いての利用案内やおはなし会等も行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 小・中・特別支援学校の児童・生徒の視察・見学、調べ学習等受入(全館) * 職場体験受入(中学生)(全館) * ブックトーク(学校訪問おはなし会)(地区館) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館見学や職場体験を積極的に受け入れた。 ●高校生インターンシップを受け入れた。 ●近隣の小学校や特別支援学校に職員や地域おはなしボランティア(*17)を派遣し、おはなし会やブックトークを実施した。 ●おはなし会と合わせ、まほうの読書ノートの説明を実施した。(美浜) 	A	<p>職場体験やインターンシップで図書館の業務内容を子どもたちに知ってもらうことの意義は大きい。近隣の小学校や特別支援学校に出向いてのおはなし会やブックトーク、また、おはなし会と合わせ、まほうの読書ノートの説明がされる等の工夫を評価する。</p> <p>学校で学校図書館に一番深く関わっているのは司書教諭と学校図書館指導員である。彼らと図書館児童担当との懇談会や互いの研修等で、子どもの読書について問題を共有し、共に千葉市の読書推進にあたってほしい。</p>

<p>ウ 市内小・中・特別支援学校に対し、図書館資料の団体貸出を行います。(中央館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●夏季休業中に団体貸出資料見学会を実施し、教職員に団体貸出についての周知を図った。 ●学校の教員や図書館指導員への研修会に積極的に出席し、団体貸出のPRを行った。(4回) <p>また、各学校へのアンケート調査を踏まえ、教科書に沿った図書資料や自然科学に関するセット貸出用資料の充実を図った。 *団体貸出による児童図書の提供数 26,159冊(前年度比2,485冊増)【評価指標4-5再掲】</p>	<p>B</p>	<p>団体貸出の貸出冊数は増加しており、教職員に団体貸出について周知した取り組みは評価する。小学校、中学校、特別支援学校それぞれの貸出冊数を分析し、今後も充実した支援が行われることを期待する。</p> <p>しかし、配本の便については課題が多く、配送等の改善を図り、更なる充実を期待したい。また、学校が必要としている本を図書館が把握するために、学校図書館指導員と図書館職員との話し合いの場を設ける等、更なる工夫が必要である。</p>
<p>エ 教育センター等と連携し、教職員の社会体験研修受け入れ、図書館利用案内、学校図書館指導員研修への協力などを行います。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教職員向けの研修会の講師を務め、図書館利用について説明した。(4回) 	<p>B</p>	<p>教育センターとの連携では、図書主任等の教職員に対して図書館に対する理解を深め、児童・生徒への指導による利用促進の啓発がなされている。</p> <p>しかし、最も重要なことは、児童・生徒と学校図書館で直接触れ合う学校図書館指導員への働きかけである。</p> <p>子ども達の図書館利用は先生方の図書館理解が大きな鍵になる。小・中学校の校長先生や先生方に対して、図書館利用を広める機会を、指導課とも連携して計画してほしい。</p>
<p>オ 親子のふれあいや家庭での読書活動の推進を図るため、平成26年度から配布している、自分が読んだ本の書名や感想を書き込める「まほうの読書ノート」を、就学前児童にも新たに配布します。(中央館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●27年7月に市内の全小学校1年生(約8,200人)に「まほうの読書ノート」を配布し、図書館等でスタンプサービスを行った。 ●27年12月に市内の幼稚園・保育所等の年長児(約4,100人)に「まほうの読書ノート」を配布した。 ●幼稚園等以外で、年長児への配布方法の検討や、ノートの活用促進について、引き続き取り組む必要がある。 	<p>A</p>	<p>「まほうの読書ノート」の取り組みを評価する。市内の幼稚園・保育所等の年長児(約4,100人)にも広げられたことの意義は大きい。読書は数字だけを追うものではないが、本を手にとることへのきっかけになると思う。学校と図書館が連携して、さらに子どもの読書推進にあたっていただきたい。なお、市内のすべての子ども達へ配布できるようにしてほしい。また、近くに図書館、公民館図書室がなく、スタンプをもらう事の難しい子ども達への対応も考える必要がある。</p>
<p>カ 子どもの読書習慣を形成するため、大きな役割を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と活動への支援を拡充します。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等に対する図書の貸出と、活動への支援を行った。 ●地域文庫等研修会で「石井桃子の翻訳はなぜ子どもをひきつけるのか」と題し、研修をした。 	<p>A</p>	<p>地域団体等との連携・協力が実践されている。地域団体への支援は、社会教育に対する図書館の活動として極めて重要であり、評価できる。</p> <p>地域文庫等研修会の内容は評価できるが、図書館と子どもの読書活動推進を担う家庭・地域の団体等との交流があるとさらに意義のあるものになると思う。今後も充実した研修を期待する。文庫に対する配送は、近くの移動図書館のステーションまで運んでもらうことができ良かった。さらに近くに地区図書館や移動図書館ステーションがないところへの配慮として、公民館図書室まで配送を検討する必要がある。</p>
<p>キ 千葉県図書館地域おはなしボランティアの育成及び資質向上を図るため、研修を受けたボランティアを地域団体等に派遣することで、活動の場を確保します。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。 ●ボランティアの交流会を支援し、知識・経験の共有化を図るとともに、意見交換を行った。 ●素話の研修を実施した。 ●近隣施設に地域おはなしボランティアを派遣した。 	<p>A</p>	<p>既に登録しているボランティアに対しての研修や交流会が持たれたことは評価する。地域の読書活動を推進する人材として、養成を続けてほしい。また、地域おはなしボランティアについて保育所(園)、幼稚園、学校等へ積極的に周知し、活動の場を増やしてほしい。</p>

<p>ク 家庭での読書をすすめるため、「ファミリーブックタイム事例集」を発行します。(中央館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●4か月児向けの事例集を各区保健福祉センターに配布(9,500部)し、小学校の新入学児童向けの事例集を市内全小学校に配布(9,735部)した。 ●妊娠期向け事例集を新たに作成し、各区保健福祉センターを通じ、母子手帳と合わせた配布を行った。(4,700部) 	<p>A</p>	<p>妊娠期向け事例集が新たに作成され、各区保健福祉センターを通じ、母子手帳と合わせた配布が行われたことは大変良い取り組みである。「ファミリーブックタイム事例集」には図書館が薦める本が掲載される等、内容が充実していることは評価できる。効果を検証し今後の読書活動推進につなげてほしい</p>
<p>ケ 図書館以外で行われる子どもの読書活動推進にかかわる事業との連携・協力の一環として、ブックスタート事業に協力し、4か月児健康診査における読み聞かせの実演や、絵本ボランティア研修に職員及び地域おはなしボランティアを派遣するとともに、配布する絵本の選書に関する助言を行います。(全館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き「ブックスタート」事業に地域おはなしボランティアを派遣した。また、各区保健福祉センター健康課の要請に応じて、絵本ボランティア養成講座の講師を務めるなど、ブックスタート事業に協力した。 	<p>A</p>	<p>絵本ボランティア養成講座の講師やブックスタート事業に地域おはなしボランティアを派遣していることは評価する。ブックスタート事業で配布している絵本については、選書に関する助言を行うだけではなく、図書館と健康課と一緒に相談して選書することも必要であろう。また、幼時の段階から図書館との結びつきをPRするために、4か月児健康診査で、健康課とタイアップして利用カードをつくることも考えてみてはどうだろうか。</p>
<p>コ 子どもの読書環境を豊かにするため、図書館から保育所等を経由し、各家庭に児童書や絵本を貸し出す「親子ふれあい本」の提供を開始します。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●27年12月に市内幼稚園・保育所等(170施設)を対象として児童書の貸出(6,800冊)を開始した。 ●地域の子育て支援施設等を含め、今後も事業に関する理解・協力を求めていく必要がある。 	<p>A</p>	<p>図書館から幼稚園、保育所等を経由し、各家庭に児童書や絵本を貸し出す「親子ふれあい本」の提供が開始されたことは、画期的な取り組みである。図書館が選んだ本を子ども達が手に取れることは、大変よいことである。また、年長児には併せて「まほうの読書ノート」が配布され、読んだ本を記録できることも、親子の心に残るよい取り組みとなっている。</p>
<p>サ 保育所・子どもルームなど子育て支援施設と連携・協力していきます。(全館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●保育所・子どもルーム・子育てリラックス館などの子育て支援施設に地域おはなしボランティアの派遣や団体貸出を行った。 ●近隣の保育所等に訪問おはなし会を行うとともに、園児を図書館に招き、おはなし会を実施した。(みやこ) ●映画会や科学あそびなど、子どもルーム全員が参加できるように、専用日を設けた。(花見川) ●幼稚園の見学を受け入れた。(若葉) ●地域おはなしボランティアの活動の場として、広く連携を図っていく必要がある。 	<p>A</p>	<p>団体貸出や各館の取り組み等、子育て支援施設との連携・協力活動が行われている。特に子どもルーム、子育てリラックス館へ働きかけた企画は評価できる。この活動については多様な可能性があると思われるので、更に周知を図り、子ども達の読書環境が豊かになるよう工夫してもらいたい。</p>

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
4-1	児童書の貸出冊数	対前年度増	122.2万冊	達成 (前年比0.3万冊増)	121.9万冊	117.4万冊	1年間に個人に貸し出した児童書(絵本～中学生向き図書、雑誌、紙芝居)の冊数
4-2	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度増	1,070回 24,701人	達成 (前年比50回増 1,771人増)	1,020回 22,930人	1,066回 21,558人	図書館で行うおはなし会、絵本とわらべうたの会等の開催回数及び延べ参加者数
4-3	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度増	235回 652人	達成 (前年比30回増 38人増)	205回 614人	213回 740人	地域おはなしボランティア活動の実施回数及び延べ派遣人数
4-4	学校等関連施設と連携事業を行った回数	対前年度増	528回	達成 (前年比33回増)	495回	438回	図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での利用案内等の連携事業を行った回数
4-5	団体貸出による児童図書の提供数	対前年度増	26,159冊	達成 (前年比2,485冊増)	23,674冊	23,996冊	団体貸出により千葉市の子どもたちが利用した図書の冊数

【方針5】 他の図書館や関係機関と連携・協力します

(1) 図書館間協力の一層の推進		内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 市民が必要とする資料を提供するため、図書館間の相互貸借等により、千葉市図書館に所蔵していない資料を市民に提供します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市が所蔵していない資料についても、相互貸借で対応することにより、利用者に提供した。 ●未所蔵図書を求める利用者に対し、図書館間協力制度の紹介を行った。 	B	<p>資料費が不足する中、相互貸借をはじめとする図書館間協力は重要になっている。また、公共図書館間の相互協力制度は確立しており、当然の事業となっているが、継続的な実施、図書館間相互貸借資料数の増加を評価する。</p> <p>なお大学図書館は、市民に開放されているところも多く、その点を踏まえた相互協力体制の整備が必要である。連携協定締結や分担収集などに関する協力体制の検討があっても良いと思われる。また、千葉市には「千葉市図書館情報ネットワーク協議会」(*18)があり、その活用強化も考えられる。</p> <p>アンケートの中で相互貸借のサービスをまだ知らない利用者がある。周知をしっかりとする必要はある。</p>
	イ 国立国会図書館のレファレンス協同データベースに引き続き千葉市の事例を掲載し、登録事例を増やしていきます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に、レファレンス事例を追加(13件)した。 	A	レファレンス協同データベースにレファレンス事例が13件追加されたことを評価する。レファレンスの処理件数からするとまだ登録できる可能性はあり、何がネックになっているのかを検証する必要がある。
	ウ レファレンスサービスの充実を図るため、千葉市以外の図書館施設とのサービスに関する相互協力を進めます。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●中央館、地区館、分館において、千葉市所蔵の資料だけでは回答が難しいレファレンスについて、千葉県内外の図書館や類縁機関に協力を求めた。 	A	千葉市以外の図書館施設との協力関係の構築・維持については評価したい。各種機関の特徴や所蔵情報を把握し、相互に活用し合うことが必要であり、今後も広範な関連機関との連携を図るよう望む。なお、レファレンス・サービスへの対応は、中央図書館だけのサービスではなく、すべての館で積極的に展開してもらいたい。

<p>エ 館種を超えた図書館ネットワークを通じて図書館サービスの向上を図るため、千葉市図書館情報ネットワーク協議会加盟館間の連携による資料の相互利用や、企画展示などの事業を実施します。(中央館)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の調査に有用な加盟館の紹介を行った。 ●加盟館紹介展を実施した。併せて期間中に講演会を開催した。 *加盟館紹介展：10/2-10/22(場所：千葉市生涯学習センター) *加盟館紹介展開催中(21日間)の千葉市生涯学習センター入館者数：70,266人 *講演会：10/9(会場：千葉市生涯学習センター)テーマ「カーリルと図書館」(参加者数：59人) ●ネットワーク協議会HPに加盟館のイベント情報などを掲載するなど、加盟館の情報発信に努めた。 	<p>A</p>	<p>千葉市図書館情報ネットワーク協議会という組織があり、地域の図書館が館種を越えて連携・協力することは有意義なことで、千葉市の特徴でもある。それを事務局としてけん引している中央図書館の存在は大きい。継続的な取り組みを評価する。 千葉市図書館ホームページから「図書館ネットワーク協議会」のホームページが閲覧しやすくなった。ネットワーク協議会について知らせる加盟館の紹介や講演会等を評価する。 しかしこの協議会を知らない市民も多いので、広く知らせることが必要である。</p>
<p>オ 職員の資料に関する知識を深めるとともに幅広い資料を利用者に提供するため、他の図書館との協力による共同研修や共同事業を実施します。(中央館)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●文化庁及び千葉市経済企画課と共催による「著作権セミナー」及び分科会を開催した。 ●更なる事業の拡充を図る必要がある。 	<p>B</p>	<p>今後も他の図書館や市内の大学や関連機関と協力をして職員の資質向上に努めてもらいたい。</p>

(2)地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体等との連携

<p>取組項目</p>	<p>ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。(全館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「子ども読書まつり」では、共催の生涯学習センターを始め、国際交流課や国際交流協会、千葉市科学館、市内小・中・特別支援学校、近隣高等学校等との連携・協力を図って実施した。 ●毎月1回「わらべうたと絵本の会」を生涯学習センターとの共催で引き続き実施した。 ●NPO及びボランティアの協力により、夏休みと秋休みにみわくわく体験教室やみやこ寄席(落語)を実施した。(みやこ) ●動物公園及び郷土博物館と事業協力し、相互に施設の利用促進を図った。(みやこ) ●加曽利貝塚博物館の協力を得て、郷土史講座「縄文時代の花見川区」を実施した。(花見川) ●動物愛護センターの協力により、動物の正しい飼い方についての資料を展示、配布した。(花見川) ●動物公園と協力して、ブックラリーを行った。動物公園からのおすすめ本を紹介してもらった。また、エミューやうずらの卵の殻を動物公園から借用し、展示を行った。(花見川) ●加曽利貝塚博物館の協力を得て、歴史探訪講座を実施した。(若葉) ●近隣高校・消防署・NPO・読書ボランティアと協力し、おはなし会や子ども読書まつりを実施した。(若葉) ●大学と連携・協力し、学生ボランティアによる「英語のおはなし会」を実施した。(美浜・打瀬) ●夏休みにNPO法人と協力して、小学生対象の「工作あそび」を実施した。(美浜・打瀬) 	<p>A</p>	<p>各種の機関と連携して多様な事業を継続して実践しており、各館でのユニークな取り組みも評価できる。これからも、継続してもらいたい。なお、実施数のみで評価はできないが、ここ数年連携事業等実施数が減少しているため、さらなる取り組みに期待したい。</p>
<p>イ 高等学校や大学、教育センター等教育機関との連携を図り、高校生、大学生、教員の図書館利用促進と、相互の資料活用について検討します。(中央館)</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校図書館研究協議会における教職員向けの説明会や夏休み中の団体貸出資料見学会で、団体貸出や図書館利用の促進を図った。 	<p>A</p>	<p>教職員に効果を説明することで、児童・生徒に図書館の有用性が効果的に伝わると思われる。さらに、教職員への図書館利用を広める取り組みを広げてもらいたい。</p>	

<p>ウ 行政サービスの向上を支援するため、庁内の職員に対して業務遂行に必要な資料・情報の提供を行います。(中央館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●庁内職員の求めに応じて調査や資料提供を行った。(8件) ●初の試みとして、地域資源(千葉氏、加曾利貝塚等)に関する資料など、職員に有用と思われる資料の庁内掲示板への掲載を行い(2回)、同時にレファレンスサービスのPRを行った。 ●庁内掲示板を活用しての行政支援サービスは、平成28年度以降も継続的に実施したい。 	A	<p>庁内掲示板が活用され、資料の掲示やレファレンスサービスのPRが行われたことを、大いに評価する。庁内職員に対するサポートは行政サービスの質向上に直結するとともに、信頼関係の構築による図書館活動への理解にもつながり、図書館運営上も非常に重要なことである。</p>
<p>エ 市民にとって、より利便性の高い情報提供機能の充実を図るため、千葉市内で市民に資料貸出や閲覧を行っている施設との連携や協力について、引き続き検討します。(中央館)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ●千葉市図書館情報ネットワーク協議会事業等により、千葉市内の図書館施設との連携を図った。 	B	<p>千葉市図書館情報ネットワーク協議会を仲立ちとして、組織間の連携・協力関係が構築されていることを評価する。 ネットワーク協議会加盟施設以外の施設との連携・協力を検討する必要もある。</p>

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
5-1	図書館間相互貸借資料数	対前年度比増	借受7,069冊 貸出9,330冊	達成 (借受前年比195冊増; 貸出548冊増)	借受6,874冊 貸出8,782冊	借受6,327冊 貸出8,363冊	他の図書館等との間で、千葉市図書館にない資料を借受した冊数と、千葉市図書館の資料を貸出した冊数
5-2	連携事業等実施数	対前年度比増	311件	未達成 (前年比15件減)	326件	333件	学校以外の機関(保育所・公民館等)との連携により実施した、市民を対象とした事業の数

【方針6】 市民参加と協働による図書館づくりをめざします

(1) 図書館活動への参加機会の提供		内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館サービスがより豊かになり、参加した方にとっても意義あるものとなるさまざまな図書館ボランティア活動を提示するため、音訳協力者やステーションマスターによるサービスの提供など、図書館サービスにおける市民ボランティアの活動領域の拡大について、引き続き検討します。(中央館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「子ども読書まつり」「図書館探検隊」「図書館見学ツアー」を、市民団体、市民ボランティアの協力により実施した。 ●図書館サービスの一部を有償ボランティアの協力により実施した。 *音訳協力者:29人、ステーションマスター:36人 	B	ボランティアや市民団体を単なる補助的要員としてとらえることなく、市民参加と協働とは何かを十分に検討し、企画段階から市民とともに知恵を出し合うような工夫をしてもらいたい。
	イ 地域おはなしボランティアを育成し、地域での活動を支援します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●既に登録して活動しているおはなしボランティアの資質・力量向上のための、スキルアップ研修を実施した。 ●素話、読み聞かせのスキルアップ研修を実施した。 	A	図書館の持つノウハウを提供し、有意義な支援活動を実施している。ボランティア育成への積極的な取り組みについて評価する。更なる充実を期待したい。
	ウ 大学生の司書課程実習やインターンシップ実習を受け入れます。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●要望のあった大学から、インターンシップ実習の受入を行った。(中央:4人、稲毛2人、美浜:1人) ●高校生のインターンシップ実習の受入を行った。(中央:5人、若葉4人) 	A	インターンシップ実習の受入には相応の負担が伴うが、将来を担う人材育成のため、今後も積極的な取り組みを継続してほしい。
	エ 中高校生や大学生の学生ボランティアの受け入れについて、引き続き検討します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●市内の高校からの協力を受け、「高校生が語るおはなし会」を実施した。(中央・若葉) ●大学と連携・協力し、学生ボランティアによる「英語のおはなし会」を実施した。(美浜・打瀬) 	B	中高校生、大学生ボランティアの活動の場を設け、実践していることは評価する。しかし現在はごく一部の学校にとどまっていることから、受け入れる範囲を広げ、学生が主体的に運営するような企画に発展させてほしい。例えばYAコーナーについて等、中高校生、大学生対象に、同年代の学生ボランティアが企画をする等が考えられる。
	オ 図書館が地域の交流の場となるように、子ども読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●関係諸機関や学校、市民団体などと連携して子ども読書まつりを実施した。「子ども読書まつり担当者会議」に市民団体代表にも出席してもらい、より緊密な連携を図った。 ●市民に図書館ギャラリーを生涯学習の成果を発表する場として提供した。(「写真で見る千葉市今昔ものがたり」など計12展示)(みやこ) ●地元企業と連携して、揚琴の演奏と絵本の読み聞かせのコラボレーション「絵本の音楽会」を開催した。(打瀬) 	B	<p>「子ども読書まつり担当者会議」に市民団体代表が出席して、計画の段階から一緒にできるようになっていることは評価する。市民に生涯学習の成果を発表する場の提供をしたことも評価できる。</p> <p>市民の企画・参加による事業については、定着しつつある館もあるようだが、まだ、一部の図書館のみでの成果のように思える。図書館で市民の企画・参加による事業ができることをPRし、各館で実施していただきたい。</p> <p>全体として図書館に参画して図書館と共に何かをするという市民の意識が醸成していない。図書館が市民に開かれた場所で、図書館と共に市民が事業をすることができることをもっとPRすると良い。</p>

(2) 市民との協働による図書館づくり

取組項目	ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、公募による委員を引き続き登用します。(中央館)	A	●H26年度に委員の改選を行い、H27年度は引き続き2人の公募委員を含めた10人の委員を委嘱した。	A	市民の声を図書館行政に反映させるため、継続的に公募委員を登用していることを評価したい。公募委員が活動しやすい支援の充実・継続を希望する。図書館協議会の中では活発な意見交換が行われている。そこで出た意見を図書館運営やサービスに反映させることが必要である。
	イ 図書館ホームページのお問い合わせメールフォーム等に寄せられる意見等を適切に把握し、図書館運営の改善に向けた基礎資料とします。(中央館)	A	●図書館ホームページ「お問い合わせメールフォーム」から寄せられた意見や「意見箱」に寄せられた意見等について、図書館運営の改善に向けた基礎資料とするとともに、回答を希望する利用者への回答を行った。	A	市民からの率直な意見を聞き改善に役立てることはとても重要である。寄せられた問い合わせや意見は「良くあるご質問」にも反映されており、情報公開の観点からも良い仕組みとなっている。アンケートの実施を目的化せず、多様な手法により市民ニーズを把握・分析するための基礎データとしての活用を望む。
	ウ 市民が図書館業務の現状や課題などに関し理解を深める機会を提供するため、市民との協働による「中央図書館見学ツアー」を計画的に実施します。(中央館)	A	●「中央図書館見学ツアー」を実施した。 実施日時等：平成28年3月16日(水)参加者8名	B	26年度に実施されなかった「中央図書館見学ツアー」が復活し、実施されたことを評価する。参加者に好評であったが、「だからこそ、もっとPRを」との声があった。職員の負担もあると思うが、図書館のことを市民に知ってもらうにふさわしい企画である。市民団体と協力し、回数、内容、広報等について検討して、より良い企画としていただきたい。
	エ 図書館サービスの向上に役立てるとともに、図書館サービスの評価に活用するため、図書館利用者に対し図書館利用アンケート調査を実施します。(全館)	B	●H28.2.6(土)～2.12(金)に来館者に対し、市図書館(分館含む)でアンケートを実施した。 ●図書館サービスの満足度は93%と、昨年を上回った。 ●自由記述の設問に対しては、資料の充実や読書環境に関する意見が多く寄せられた。 ●特に催し物(おはなし会・講座など)については、認知度は高いが参加者が少ないため、募集方法や広報の仕方を工夫する必要がある。 ●図書館を普段利用しない人からの意見を聴取する工夫が必要である。	B	毎年全館における利用者アンケートを実施していること、さらに90%前後の満足度を維持していることは高く評価できる。特に27年度の満足度は93.3%と、昨年を上回った。アンケートの実施と集計に多大な労力を要すると思うが、市民の意見を聞くことは大切である。多様な意見の中から必要性や実現可能性等を慎重に検討し、図書館機能の向上に努める必要がある。なお、図書館を利用していない潜在的利用者に対するアンケート調査も必要であろう。また利用者アンケートは公民館図書室でも実施し、利用者の意見を公平に汲み取ってもらいたい。

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
6-1	千葉県図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足度 93.3%	達成 (前年比3.6%増)	満足度 89.7%	満足度 90.9%	千葉県図書館利用アンケートにおいて、市全体の図書館サービス満足度を、「満足」または「やや満足」と回答した利用者の割合(小数点2位以下は四捨五入)

【サービス推進のための経営資源について】

図書館サービスに欠くことのできない「施設」「資料」「人」の3つの経営資源の充実に努めます		内部評価	H27_内部評価	外部評価	外部評価者のコメント
取組項目	ア 図書館の安全性・快適性を確保するため、施設の点検や老朽化部分の改修を行います。(全館) * 屋上防水改修(稲毛)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●当初計画とおり実施した。 ●厳しい財政状況であるが、安全面や緊急性等から優先度を勘案し、今後も必要に応じ修繕対応を行う。なお、一定規模以上の修繕は、必要に応じ中長期保全計画に位置付け計画的に実施する。 ●安全性を図るため、外壁劣化調査を実施し修繕の要否を見極めた。(みやこ) 	A	継続的な対応について評価する。施設の老朽化は、市民の安全やサービスの質にも影響する。利用者アンケートでは老朽化部分の指摘も見られ、財政状況の厳しさは理解しながらも、市民の安全・安心のためにも、予算の確保と先を見越した対応をお願いしたい。
	イ 図書館サービスの向上を図るため、(仮称)瑞穂情報図書センターを整備します。(中央館) 新規 予定面積 457.4㎡ 予定蔵書数 2万冊(開設時) ※平成27年度は基本・実施設計	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「としょかんふれんず千葉市」「花見川区にもう一つ図書館をつくる会」と7回打ち合わせを行い、地域からの意見をいただいた。 ●近隣の花園小学校、瑞穂小学校の小学生から、ワークショップを通じて、意見をいただいた。 ●図書館に実績をもつ民間事業者(3社)から、対話を通して意見をいただいた。 ●上記の意見を取り入れた上で、H27年度は実施設計を行った。 	A	花見川区に図書館ができることは、市民の長年の念願でもあった。図書館のない地域に(仮称)瑞穂情報図書センターを整備していること、地域の意見を取り入れるために7回打合せをしたこと、近隣の小学生から聞いた意見を聞いたことは評価できる。そこで出された意見を十分に検討し、反映させてほしい。
	ウ 図書資料費の確保に努めるため、引き続き予算対応を行うとともに、寄付金受入や募金箱の設置及びパンフレットラックの設置等による広告料の収入増を図ります。(全館)	A	<ul style="list-style-type: none"> ●合同選定会議・館内選定会を実施し、多岐にわたる利用者の要望に対応した。《【方針1】(1)ウ再掲》 ●「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、効率的・計画的に各分野の新刊書などを購入し、利用者に提供した。 ●図書資料の整備に充てるため、寄附金の受入や募金箱を設置するとともに、雑誌リサイクルにおいて会場内に募金箱を設置するなどし、資料費の確保に努めた。 *寄附金収入:433,759円(前年比 16,514円増) ●広告料収入を確保するため、民間事業者による、大学等のパンフレットラック設置、ポスター掲示等をした。 *広告料収入:941,500円(前年比 13,500円減) 	A	<p>厳しい財政状況の中、数年来同水準の資料費を確保していることは評価できる。また、外部資金の確保や予算執行にも努力・工夫がみられる。一方、資料費は図書館サービスの基幹に関わる問題なので、図書館の実績や必要性などを関係部署に積極的にアピールし、少しでも多くの予算確保に努めてほしい。</p> <p>寄贈資料の割合は減少しているものの、引き続き、寄贈に頼らずに資料費を確保することを目指してほしい。また、募金や寄附が図書資料の充実の一端を担っている現状は認めるが、募金や寄附に頼ることなく、資料費の確保に向けた努力をお願いしたい。</p>
	エ 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。(中央館)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●司書資格を有する職員の配置を要望するとともに、有資格の嘱託職員について内部研修や派遣研修によりスキルアップを図った。 ●より多くの職員を専門的な研修に派遣できるよう、予算の確保に努める必要がある。 	C	<p>司書資格を有する職員の増員を望む。経験のある職員が少ないように思える。嘱託を含めた、職員研修の実施については評価できる。研修については機会の増加も必要だが、学んだままにするのではなく、実践につなげる仕組みを確立することが必要である。図書館の仕事は、本を知り、資料や情報の活用方法に精通した専門的職員でなければ、市民が求める要求に対応できない。</p> <p>また、庁内にいる図書館業務に関心のある職員を図書館に配置したり、職員が司書資格を取りやすい体制を作る等、司書資格を有する職員の割合を増やす努力も必要である。</p> <p>今は正に世代交代の時期であり、図書館業務に意欲のある新しい人材の育成は、ますます急務となっている。千葉市図書館の近い将来は、この取組み如何にかかっている。</p>

	評価指標	達成目標	平成27年度実績	達成状況	平成26年度実績	平成25年度実績	備考
7-1	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	53.7%	未達成 (前年比0.6ポイント減)	54.3%	54.5%	千葉市図書館の職員(正規職員及び嘱託職員)のうち、司書資格を有する職員の割合(翌年度4月1日現在) 27年度 正規職員 28.4% 嘱託職員 94.4% 26年度 正規職員 28.0% 嘱託職員 97.1% 25年度 正規職員 29.7% 嘱託職員 95.8%

内部評価

【評価】

総合的には、一定の業務水準を確保することができたものと考え。

- 千葉市図書館利用アンケートにおける、サービスの満足度は93%と、昨年を3.6ポイント上回った。
- 千葉市子ども読書活動推進計画(第2次)を推進するとともに、新たな第3次計画を策定した。
- 平成26年度に引き続き、まほうの読書ノートの配布し、親子のふれあいや家庭での読書活動の推進を図った。(平成27年7月に市内の全小学校1年生(約8,200人)、平成27年12月に市内の幼稚園・保育所等の年長児(約4,100人)に配布)
- 子どもの読書環境を豊かにするため、図書館から保育所等を経由し、各家庭に児童書や絵本を貸し出す「親子ふれあい本」の提供を開始した。
- 家庭での読書をすすめるため、「ファミリーブックタイム事例集」を、新たに妊娠期に向け各区保健福祉センターに配布(4,700部)した。
- 初の試みとして、地域資源(千葉氏、加曽利貝塚等)に関する資料など、職員に有用と思われる資料の庁内掲示板への掲載を2度行い、同時にレファレンスサービスのPRを行った。
- 「中央図書館見学ツアー」を実施した。実施日時等:平成28年3月16日(水)参加者8名
- (仮称)瑞穂情報図書センターについては、地域の団体、こどもワークショップ、事業者からの意見をいただいたうえで、実施設計を行った。

【課題】

- 来館者数は減少傾向にあることから、引き続き、図書館未利用者へのPRについて、検討する必要がある。
- 資料の切り抜きなどが引き続き見られることから、マナー向上に対しては更に対策を図る必要がある。
- 有料データベースについては、必要な経費が確保できなかったため、引き続き検討する。
- まほうの読書ノートについて、幼稚園等以外で、年長児への配布方法の検討や、ノートの活用促進について、引き続き取り組む必要がある。
- 親子ふれあい本について、地域の子育て支援施設等を含め、今後も事業に関する理解・協力を求めていく必要がある。

【方針】

以上のことから、引き続き、限られた予算の中で、最大限の図書館サービスの提供を目指し、一つ一つの課題を解決していくために、次のように施策展開を図る。

- 図書館ホームページ、Facebook等の電子媒体による情報発信と併せて、ポスター掲示、チラシ配布(カウンター等での手渡し)による周知を徹底し、図書館未利用者へのPRの強化を図る。
- 資料の充実を図るため、資料費予算の確保に努める。
- 子どもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、平成27年度に策定した、千葉市子ども読書活動推進計画(第3次)を推進する。
- 利用者の利便性を高めるため、ICT(情報通信技術)を活用した新たな情報提供サービスについて、引き続き検討する。
- 庁内職員へのサービス提供として、庁内掲示板を活用しての行政支援サービスは、平成28年度以降も継続的に行う。
- 図書館サービスの向上のため、平成29年3月開設をめざし、(仮称)瑞穂情報図書センターの整備を進める。

外部評価

【評価】

- ・全体として図書館の努力を評価する。「読書環境整備計画」「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき様々な取組が行われ、「第3次子ども読書活動推進計画」を策定した。また、予算、施設、人的資源等さまざまな制約がある中、工夫を凝らし図書館機能の維持に努めている。特に市民に対するニーズの把握に おいて積極的に取り組む姿勢がみられる。職員の努力に感謝する。
- ・積極的な働きかけでレファレンスサービスの向上に努め、レファレンス受付数が増えている。
- ・ホームページは、見やすく情報量が多く適切な更新も行われている。また、ホームページにおける「中高生のページ」は、もう一歩踏み込んだ魅力あるものにしてほしい。
- ・子どもや中高生のための資料収集や展示に工夫が見られ、子どもの読書活動推進のためのイベントや講座が各館で多彩に実施されている。児童書については貸出冊数が増加するなど成果があらわれている。また、市民や団体、関係機関との連携・協力も図られている。
- ・「まほうの読書ノート」、「ファミリーブックタイム事例集」は、対象者を広げ、健康課や保育所(園)、幼稚園等と連携して配布した。また妊娠期向け事例集が新たに作成され配布されていること、親子ふれあい本の提供が開始された点もよい。千葉市全体として読書活動を推進していることのあらわれとして高く評価できる。
- ・地区図書館の開館時間拡大、分館の祝日開館実施は市民が希望していたことでもあり評価できる。
- ・中央館の企画・展示は充実し、「子育て応援コーナー」や「ビジネス支援コーナー」にも工夫がみられる。地区館でも地域のニーズに合った企画・展示があり、図書館に来てもらえるように意欲的な取組が行われたことを評価したい。
- ・地域資源(千葉氏、加曽利貝塚等)に関する資料などを庁内掲示板への掲載やレファレンスサービスのPRを行うなど、前向きな働きかけを評価する。継続して図書館をPRして行ってほしい。
- ・施設の維持・管理について計画に基づき適切な対応がなされている。
- ・資料費の確保および執行について努力・工夫がみられる。
- ・大学等のパンフレットラックの設置等で収入を得られるような努力をしている。
- ・館内のレイアウト、表示に改善がみられる。
- ・アンケートを毎年実施し、利用者の要望に応えようとする姿勢がみられ、結果としても高い満足度が継続していることは高く評価できる。

【課題】

- ・経験と実績のある専門的職員の退職が続く時期において、それを引き継ぐ職員の育成は急務である。資料や情報の活用方法に精通し、意欲のある司書資格所有者を増やすよう努めていただきたい。
- ・公民館図書室は市民に身近な読書施設であり、高齢化社会を目前にした今、その充実は大きな課題である。公民館に指定管理制度の導入が検討されているため、公民館図書室のあり方も十分検討される必要がある。千葉市全体の読書環境を考える責任は図書館にあり、公民館図書室を所管する部署と十分に話し合い、よりよいサービスができるように検討していただきたい。
- ・来館者数、貸出冊数が増えていない。原因の分析が必要である。
- ・子どもの読書活動を推進させるためには、図書館だけでなく学校、幼稚園、保育所、地域との連携がとても重要である。特に学校の司書教諭、図書館指導員とともに、どのように連携をすると効果的に子どもの読書を推進することができるかを一緒に考えてほしい。
- ・子どもに対するサービスとして、調べるための資料・情報の探し方に関する講座を積極的に行ってほしい。
- ・中央館と他の地区館、分館との間にサービス、Wi-Fiの整備等の格差がある。全館で同じようなサービスが受けられるように検討してほしい。
- ・図書館が近くにある学校とない学校の間でも、受けられるサービスの格差がある。格差がなくなるよう検討してほしい。
- ・有料データベースの早期提供を望む。
- ・寄贈に頼らない資料の収集ができる資料費の確保を考えてほしい。資料費の安定的な確保のためにさらなる努力・取り組みを期待する。
- ・市民との協働とは何かを、市民とともに検討し、図書館とボランティアのより良い関係を模索していただきたい。
- ・パスファインダーやレファレンス事例紹介の充実等により、利用者自身による問題解決、職員間の情報共有を図る必要がある。
- ・(仮称)瑞穂情報図書センターについて地域住民の意見を聞くだけでなく、要望を運営やサービスに反映させる努力をしてほしい。
- ・現在、千葉市は開府900年に向けて、また加曽利貝塚の特別遺跡指定に向けて様々な取り組みをしようとしている。千葉市の歴史、地域資料を掘り起こす作業は、図書館こそできるものである。地区館を中心に積極的に地域資料を計画的に収集してほしい。

【用語解説】

- *1 **除籍**: 図書館に受入登録されている資料の記録を抹消すること。
- *2 **非常勤職員**: 一般職の常時勤務を要しない職員。図書館では、週3日勤務。雇用期間は原則1年だが、図書整理業務は経験が必要であり、継続雇用手続きをとっている。
- *3 **レファレンスサービス**: 利用者からの質問に対し、図書館で得られる情報を基に答えるサービス。回答そのものを与えるものと、回答を得るために必要な資料や情報源を提供する場合がある。
- *4 **おはなし会**: 読み聞かせ、素話、わらべうた等の会の総称。
- *5 **公衆無線LAN環境**: 無線LANによってノートパソコンなどから、インターネットへの接続サービスを利用出来る場所を設定する。利用に際しては、利用者自身の接続業者との契約が必要となる。
- *6 **(非常勤)嘱託職員**: 特別職の地方公務員。教育委員会が委嘱し、委嘱期間は1年(再委嘱可)。図書整理業務については、司書有資格者を、中央図書館は週4日勤務、地区図書館・分館は週3日勤務で委嘱している。
- *7 **調べ案内(パスファインダー)**: 特定のテーマに関する資料や情報の調べ方を一覧できるようにまとめたもの。網羅的な文献リストや全般的な検索方法の紹介とは異なる。
- *8 **ブックトーク**: グループを対象として数冊の本を紹介する仕事またはその集会。
- *9 **CSR(企業の社会的責任)**: 企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、あらゆる利害関係者(社会全体)からの要求に対して適切な意思決定をすることを指す。企業の経済活動には利害関係者に対して説明責任があり、説明できなければ社会的容認が得られず、信頼のない企業は持続できないとされる。
- *10 **宅配サービス**: 身体障害等で、図書館への来館が困難な市民に対して、地区図書館から職員が、月2回、図書館資料を届けるサービス。
- *11 **(対面)音訳**: 視覚などに障害を持ち、活字資料を読むことが困難な利用者に対し、1対1で、資料を読むサービス。「対面朗読」とも言うが、文章だけでなく、図・表・写真も音声化することが求められるため、「音訳」という言葉を使っている。
- *12 **多文化サービス**: 地域に暮らすマイノリティ(民族的・言語的・文化的少数者)に対し、母語を中心とした資料・情報を提供することで、知る権利・学ぶ権利を保障する図書館サービス。多言語サービスとも言う。
- *13 **地域・行政資料**: 特定の地域で刊行、出版され、また、その地域に関して記述されている資料、図書、逐次刊行物、小冊子等の文献資料などその地域の事情を知り、研究の手がかりとなる資料。
- *14 **出前講座**: 市の施策や制度・事業について市の職員が説明に出向き、質疑応答や意見交換を通して、市政への理解を深め、参加と協働のまちづくりを推進するもの。(地域振興課所管事業)25年度は150テーマを掲げており、図書館は「図書館を上手に使いこなそう」と「知って得する図書館利用法」の2テーマで申し込みを受けている。
- *15 **YA(ヤングアダルト)**: 図書館界や出版界で、主に10代の読者や利用者を、児童と成人の中間に位置し独特の配慮を要する利用者層として意識して呼称するときに使う用語。千葉市図書館のサービス対象としては、中・高校生を想定している。
- *16 **地域(家庭)文庫**: 自宅を開放したり団地やマンションの集会所等を借りて、子どもたちに本を貸し出したり読み聞かせをしたりする団体及び個人。
- *17 **地域おはなしボランティア**: 千葉市における子どもたちの読書活動の推進を目的に実施する「おはなし会」等の趣旨に賛同し、自らの自由意思により、その知識及び技能を無償で提供する者。登録には千葉市生涯学習センター及び千葉市図書館主催のボランティア養成研修を修了することが条件となる。
- *18 **千葉市図書館情報ネットワーク協議会**: 千葉市内の館種を越えた図書館ネットワークを通じて、情報提供能力を強固にし、図書館サービスの向上を図ると共に、学術研究及び生涯学習の発展に寄与することを目的として、平成6年1月に設立。平成27年度の加盟館は26館。千葉市中央図書館が事務局となっている。